

令和4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

ブロック：瀬戸内海ブロック

アイゴ

海域	瀬戸内海東部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、岡山県農林水産総合センター水産研究所、香川県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課
----	--------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は漁獲量以外の情報についての検討と生物学的特性に関する文献調査を実施
- ・岡山県、香川県、徳島県は漁獲量統計調査を実施

(2) データ収集状況

- ・岡山県では2020～2021年の県下3漁協の月別漁獲量を収集済み
- ・香川県では播磨灘（3漁協）および備讃瀬戸（1漁協）の標本漁協における2002～2021年の漁法別漁獲量を収集済み
- ・徳島県では播磨灘の標本漁協における2003～2021年の月別漁法別（定置網）漁獲量を収集済み

(3) 生物学的特性

山本ほか（2020a、2020b）等に基づき、以下を記載した

- (1) 分布・回遊：本海域では1～3月には漁獲されず、4月に徳島県で成魚が漁獲され始める。その後、6～8月にかけて播磨灘の岡山県、香川県海域を含め広域で漁獲される。9月には標準体長100mm前後の新規加入群が香川県海域で出現する一方、成魚は徳島県海域で漁獲される。新規加入群は播磨灘で成長し、海水温の低下と共に播磨灘から太平洋へ移動し、12月になると、9月に香川県海域で出現した新規加入群と成魚が徳島県海域（紀伊水道）で漁獲される。
- (2) 年齢・成長：極限体長は雌の方が大きく、雌雄の最高年齢はそれぞれ8歳と4歳が確認されている。成長に雌雄差は認められない。満年齢時の標準体長を成長式から求めると1歳169mm、2歳206mm、3歳227mm、4歳239mmであり、2歳までの成長が速い
- (3) 成熟・産卵：雌雄ともに標準体長が200mm弱に達すると成熟を始める。6月中旬から7月にかけて成熟期となり、7月下旬より退行期に移行する個体が出てくることから、産卵期は6月中旬から7月を中心に6～8月と考えられる。香川県・岡山県の播磨灘海域では産卵期に成熟魚、9月に標準体長100mm程度の当歳魚が漁獲されるこ

とから、産卵場となっている可能性が高い

- (4) 被捕食関係：響灘での調査（野田ほか 2011）などによれば、成魚は夏期には大型褐藻類に加えて小型の紅藻類、緑藻類および浮遊性動物プランクトン等を摂食する。大型褐藻類が成育し始める秋期になると、胃内容物に占める大型褐藻類の割合が増加する。夏期・秋期ともに海藻類が胃内容物の70%以上を占めるが、固着性小型動物類等も摂食する。そのため、1年を通して雑食性である

(4) 備考

- ・漁獲量データは一部の小型定置網に限定されており、データの種類やその収集方法について引き続き調査が必要である

引用文献

野田幹雄・大原啓史・浦川賢二・村瀬 昇・山元憲一 (2011) 響灘蓋井島のガラモ場に出現したアイゴ成魚の餌利用. 日本水産学会誌, **77**, 1008-1019.

山本昌幸・棚田教生・元谷 剛・小林靖尚・片山知史 (2020a) 瀬戸内海東部におけるアイゴの年齢・成長と産卵. 水産海洋研究, **84**, 178-186.

山本昌幸・棚田教生・元谷 剛 (2020b) 瀬戸内海播磨灘におけるアイゴの漁獲量の年・季節変動. 水産増殖, **68**, 287-292.